

今日の説教のポイント<ルカによる福音書8章42~48節>

①信じがたいイエス様の奇跡の話？ しかし話はまだ続く！

人から疎まれる難病にかかり、治療費に財産を使い果たし、それでもなお治らない。理不尽極まりないことが私たちにも起こることがあります。この女は私たちの代表です。彼女はイエス様のことを聞き、他の誰よりも強くイエス様に期待して信じたということでしょうか、イエス様に会いに行き、その服の房に触れると出血が止まったのです。やはり、この聖書の話は信じがたい奇跡を伝え、信じたら治るということを教える話なのではないでしょうか？ しかし、それならここで話は終わりのはずですが、それで終わっていないここからが大事なのです！

②イエス様が癒された女を捜し続けられた理由は？ 救いとは何か？

「イエス様を信じて大成功！」、女はそう思って帰るつもりだったかもしれませんが。しかし、「私に触れたのは誰か」(45)、イエス様が突然そう言われ、執拗に問い続けられたのです。なぜなのでしょう？

救いとは何でしょうか？ 「この女性にとっては不治の病が治ること」、誰もがそう思うでしょう。しかし、一難去ってまた一難、人生には次々色んな事が起るものです。不思議な仕方でも難儀が解決した時に人は「奇跡だ」と叫びますが、聖書から教えられる本当の奇跡、本当の救いとは、実はそういうものではないのです。イエス様はそのことを教えようとして、女の方から名乗りを上げるのを待たれたのではないのでしょうか？！

③「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」(48)の意味

「あなたの信仰があなたを救った」で、難病が治ったことを考えてもいいでしょう。しかし、その次の「安心して行きなさい」はどういう意味でしょうか？ 治った女に安心はまだなかったのでしょうか？

②に書いたように、女が「難病が治った、万歳！」とだけ思って帰っていたら、次に遭遇する試練の中でまた行き詰って同じ状態になっていたかもしれません。女が事の次第を話した47節の時間は大事です。「病が治ったことより、このイエス・キリストというお方が大事なのだ！」、と女が気づくための時間であったからです！ だからイエス様は言われたのです、「これからは、もう何があっても、私を思って平安の内に歩めますね」と。本当に驚くべき奇跡は、このお方の存在なのです！